

第5学年 国語科学習指導案

書式は学校の指定に合わせて調整してお使いください。

日 時 令和 年 月 日 () 第 校時
場 所
指導者

1 単元名

「意見文を書いて読み合い、よいところを見つけよう」 教材名「あなたは、どう考える」

2 単元の目標

思考に関わる語句の量を増し、語感や言葉の使い方に対する感覚を意識して語や語句を使うとともに、文章の構成や展開、文章の種類とその特徴について理解する（(1)オ・力）。身の回りの話題について、事実と感想、意見とを区別して書くなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫して意見文を書き、文章全体の構成や展開が明確になっているかなど、文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見付ける（B(1)ウ・力）。言葉がもつよさを認識し、思いや考えを進んで伝え合おうとする（学年の目標(3)）。

3 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①語感や言葉の使い方に対する感覚を意識して、語や語句を使っている。（(1)オ） ②文章の構成や展開、文章の種類とその特徴について理解している。（(1)力）	①「書くこと」において、目的や意図に応じて、事実と感想、意見とを区別して書くなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫している。（B(1)ウ） ②「書くこと」において、文章全体の構成や展開が明確になっているかなど、文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見付けている。（B(1)力）	①自分の主張が読む人に伝わるかを粘り強く確かめ、学習の見通しをもって、意見文を書いて読み合おうとしている。

4 指導上の考察

（1）単元について

本単元は、学校や地域の生活の中から話題を選んで自分の主張を決め、理由と根拠を挙げて意見文を書き、友達と読み合う書くことの単元である。学習指導要領第5学年及び第6学年のB(1)力「文章全体の構成や展開が明確になっているかなど、文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見付けること」を中心に、B(1)ウの「事実と感想、意見とを区別して書いたりするなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫すること」を合わせて指導する。言語活動はB(2)ア「事象を説明したり意見を述べたりするなど、考えたことや伝えたいことを書く活動」に当たる。

第3学年及び第4学年では、自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして書くこと（B(1)ウ）を学んでいる。本単元では、それに加えて、予想される反論とそれへの考えを書き入れたり、主張を初めに書くか終わりに書くかを選んだりして、読む人が納得する構成や展開を考える。主張を表す言

葉、理由を示す言葉、反論を受ける言葉を使い分ける学習は、(1)オの「思考に関わる語句」とも結びつく。この後の学習では、引用したり図表やグラフを用いたりして考えが伝わるように書くこと（B(1)エ）へとつながる。

（２）児童について

（学級の子どもの様子を先生が書く）

（３）指導について

指導に当たっては、次の三つを大切にします。まず、主張・理由・根拠を分けて書き出させ、根拠が事実（見たこと・調べたこと・数や記録）か、自分の感想や意見かを区別させる（B(1)ウ）。次に、書く前に一度グループで考えを読んでもらい、反対の立場から意見をもらって、予想される反論とそれへの考えを書き加えさせる。そして、読み合いでは「よかった」で終わらせず、主張の位置・理由の順序・反論の扱い方などの観点で、どの段落のどの書き方がよかったかを伝え合わせる（B(1)カ）。

書いた意見文は、主張と理由・根拠が対応し、構成が明確になっている物を「おおむね満足できる」状況、予想される反論を挙げてそれに答え、主張に説得力をもたせている物を「十分満足できる」状況の目安にする。読み合いでは、友達の感想や意見を基に、自分の文章のよいところを構成や展開に関わって一つ以上挙げている物を「おおむね満足できる」状況の目安にする。

５ 指導と評価の計画（全6時間）

次	時	学習活動	評価規準（評価方法）
第1次	1	○ほかの人の意見を読んだり聞いたりして、なるほどと思った経験や、違う考えをもった経験を出し合う。 ○学習課題「読む人が納得する意見文を書き、読み合ってよいところを見付けよう」を立て、学習計画を立てる。	態①（発言・ノート）
第2次	2	○学校や地域の生活の中から話題を集め、一つ選んで主張を一文で書く。 ○主張の理由と、理由の根拠になる事実（見たこと・調べたこと・数や記録）を書き出す。	
	3	○グループで主張と理由・根拠を読み合い、説得力を感じた所と補った方がよい所を伝え合う。 ○予想される反論を考え、必要な事実を本やインターネットで調べ足す。	態①（書き出しシート・観察）
	4	○主張・理由と根拠・予想される反論とそれへの考え・まとめを、どの順で書くか考えて構成メモを作る。 ○主張を初めに書く形、終わりに書く形、両方に書く形を比べ、自分の文章に合う形を選ぶ。	知②（構成メモ）
	5	○構成メモを基に意見文を書く。主張・理由・反論を表す言葉を使い分ける。 ○事実と意見を区別して書いているかを読み返し、文章を整える。	知①（意見文） 思①（意見文）

次	時	学習活動	評価規準（評価方法）
第3次	6 （本 時）	○意見文を読み合い、構成や展開について感想や意見を伝え、自分の文章のよいところを見付ける。 ○単元の学習を振り返る。	思②（読み合いカード・ノート） 態①（振り返り）



6 本時の指導 (6/6)

(1) 本時の目標

友達と意見文を読み合い、主張の位置や理由の順序、反論の扱い方など、文章全体の構成や展開について感想や意見を伝え合って、自分の文章のよいところを見付けることができる。(B(1)力)

(2) 学習過程

段階	学習活動 (○主な発問) ・予想される児童の反応	指導上の留意点 (◎評価)
導入 (分)	1 前時に書いた意見文と構成メモを手元に置き、単元の学習課題を確かめる。 2 本時のめあてをつかむ。 ○「読む人が納得する意見文には、構成や展開にどんな工夫がありましたか」 【めあて】構成や展開に目を向けて意見文を読み合い、自分の文章のよいところを見付けよう。 3 感想や意見を伝える観点を確かめる。 〈予想される児童の反応〉 ・主張が初めにあると、何について書くのかがすぐ分かる。 ・理由を二つ挙げて、それぞれに根拠の事実を書いた。 ・反対の考えを先に書いて、それに答えている。	・第4時に確かめた構成の観点(主張の位置・理由と根拠の順序・予想される反論とそれへの考え・まとめ)を短冊にして掲示し、読み合いの観点にする。 ・「よかった」「分かりやすい」だけで終わらないよう、どの観点的、どの段落かを添えて伝えることを確かめる。
展開 (分)	4 三人か四人のグループで、意見文を順に読み、読み合いカードに書く。 ○「主張に納得できたのは、どの段落の、どんな書き方があったからですか」 ○「もっと納得できるようにするには、どこをどう直すとよいですか」 5 カードを基に、書き手に感想や意見を伝える。書き手は質問に答え、友達の意見で気付いたことをメモする。 6 全体で、友達の意見文の構成や展開のよいところを紹介し合う。 〈予想される児童の反応〉 ・初めと終わりの両方に主張があるので、言いたいことがはっきりしている。 ・反対の考えを認めてから自分の考えに戻っているのが納得できた。 ・理由の二つ目には根拠の事実がないので、調べたことを足すとよい。 ・自分では気付かなかったが、数を使った根拠がよいと言われた。	・読み合いカードは「納得できた所(段落とわけ)」「質問」「もっとよくなる所」の三つの欄にし、よいところから伝える順にする。 ・書き手はまず黙って聞き、その後で質問に答える順にして、主張の正しさの言い合いにならないようにする。 ・言葉が出ない子には、観点的の短冊を一枚ずつ示し、「主張はどこにあったか」から聞く。 ・意見文が仕上がっていない子は、構成メモを読んでもらい、主張と理由の対応について意見をもらう。 ・端末で意見文を共有している場合は、コメント機能で段落の番号を添えて書き込ませる。 ・全体の紹介では、構成の違う二つの文章を取り上げ、それぞれのよさを比べる。

段階	学習活動（○主な発問） ・予想される児童の反応	指導上の留意点（◎評価）
まとめ （分）	7 友達の感想や意見を基に、自分の文章のよいところと、今度書く時にいかしたいことをノートに書く。 （型）「わたしの意見文のよいところは、…段落の…という書き方です。…さんから…と言われて気付きました。今度書く時は…をいかしたいです」 8 単元の学習を振り返る。	・「よいところ」は、友達の言葉を引いて、構成や展開に関わる所を一つ以上挙げさせる。 ・振り返りは「構成や展開で工夫したこと」「今度意見文を書く時にいかしたいこと」の二つで書かせる。 ・学習した構成の工夫は、社会科や総合的な学習の時間で意見を書く時にも使えることを伝える。 ◎思② 文章全体の構成や展開が明確になっているかなど、文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見付けている。（読み合いカード・ノート） ◎態①（振り返り）

（３）板書計画（縦書き・右から左へ）

右端に日付、題名、単元の学習課題、本時のめあて。その左に、読み合いの観点（主張の位置・理由と根拠の順序・予想される反論とそれへの考え・まとめ）を四枚の短冊で並べる。中央に、全体で紹介した二つの意見文の構成を、段落ごとの短冊（主張・理由一・理由二・反論とそれへの考え・まとめ）で右から順に並べ、二つの文章を上段と下段に置いて構成の違いが見えるようにする。その左に、子どもが見付けたよいところ（初めと終わりに主張がある・反論に答えている・数を根拠にしている など）を観点ごとに書き足す。左端に、自分の文章のよいところを書く型と、振り返りの観点二つ。

AIが作成した授業案です。授業での検証は未実施です。自校の教材・年間計画・学級の実態に合わせて確認してください。



Threads「三重でAI使うなら」 (@mie_ai_katsuyo)
https://www.threads.com/@mie_ai_katsuyo

LINEオープンチャット
 みえ先生ラボ

